

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

- 1 10代とともに ～反発が世界を変えていく
- 4 2024-2025 冬のラボ国際交流
ニュージーランド，中国青少年受入れ報告
- 7 States' 4-H 新代表メッセージ
2025 ラボ国際交流 夏の受入れ家庭募集
- 8 ラボ国際交流 50年記念 交流のエピソード
- 9 What do you do as Labo Intern?
- 10 東京言語研究所 教師のためのことばセミナー
AI活用は，教育的な願いから始まるコミュニケーションである
東京言語研修所 講座募集案内
- 11 Go Ahead! ～山口県・若月洋一氏
Information



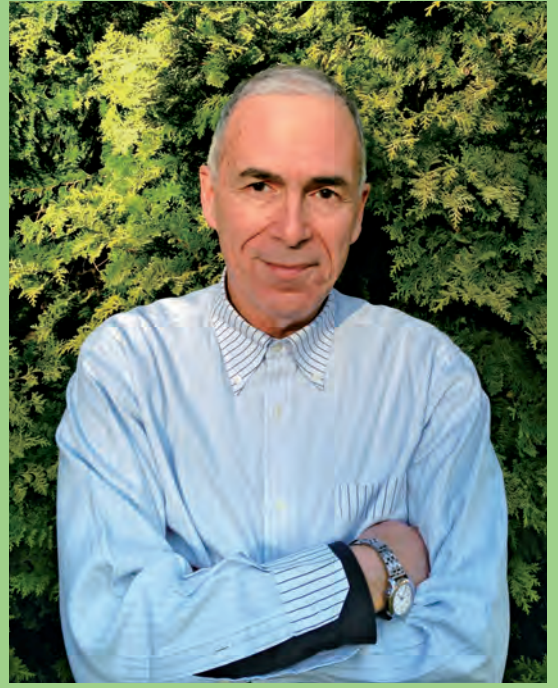
冬のホームステイ受入れプログラムでは，5年ぶりに中国・上海
外国語大学附属外国語学校から7名の青少年が来日。関西，四国で
来日者との交流がうまれました。

10代とともに

ロジャー・パルバース

Roger Pulvers

1944年、アメリカ生まれ。1976年にオーストラリア国籍を取得。作家／劇作家／映画監督。ハーバード大学大学院ロシア地域研究所で修士号を取得。その後、ワルシャワ大学とパリ大学へ留学。1967年にはじめて日本の土を踏んで以来、半世紀を日本で過ごす。大島 渚監督作品『戦場のメリークリスマス』の助監督などを経て、執筆活動を開始。深く敬愛してやまない宮沢賢治の作品の英語翻訳にも数多く携わり、その功績から第18回宮沢賢治賞（2008年）、第19回野間文芸翻訳賞（2013年）、第9回井上靖賞を受賞。自身の小説『星砂物語』を映画化し、2017年公開。



反発が 世界を変えていく

私は星が好きな子どもでした。将来は天文学者になりたいかったということもあって、10代の頃はほとんど毎晩のように望遠鏡をのぞいて星空を見上げていました。両親は星に興味はありませんでしたが、私が「もっと良い望遠鏡がほしい」と言えば、新しい望遠鏡を買い与えてくれました。

家の裏庭で望遠鏡をのぞいていると、星がどんどん動いているのがわかります。家のほうを見ると、窓のなかで両親がじっとテレビに見入っています。星は動く、両親はテレビの前から動かない、星は動く、両親は動かない……。子どもの頃になんだか皮肉のような発見をしたのを思い出しますね。

高校生のときは、数学が得意でした。アメリカで上位1%に入るほどの成績だったんです。でも、大学の数学はさっぱりわからなかった。その時に「人の能力には天井がある」と知ったんです。私の能力では、高校の数学が限界だったということです。当時は、数学

ができなければ天文学者になれなかったので、天文学者の道は諦め、「とにかく自分の想像力をいかしたい」と思い、政治学を学びはじめました。

中学生の頃、教科書に書いてあることしか教えてくれない先生の授業が嫌でした。自分が知りたいことは、人と会って話を聞いたり、本を読んで調べるほうがずっと良いと思っていました。先生や親のいうことをそのまま信じてしまったら、そこで終わってしまいます。教えられたことを疑問に思うことから、学びがはじまると思っています。

私の考える「想像力」というのは、前の世代から教わることへの反発を意味するのかもしれませんが。だからみなさんにも10代のうちに、ぜひいろいろなことに反発してほしいのです。ことばの定義についても同じです。たとえば「神様」というときに、日本人のいう「神様」と、アメリカ人の「God」には違いがあるはず。「平等」ということばも、国やその人のおかれている状況によって意味合いはかわるでしょう。だからみなさんには、すべてのことを問う姿勢をたいせつにしてほしいんです。それも表面的なことではなく、根本的なことを問うてほしいのです。「自由ってなんだろう?」「愛ってなんだろう?」など考えて、自分

今回お話をうかがったのは、作家のロジャー・パルバースさん。生きていくうえでたいせつにしたいことをパルバースさんの経験とあわせてうかがいました。ときにはあと回しになってしまいがちな「自分の思い」をたいせつにすることの意味を考える、とてもすてきな時間になりました。

が納得できる答えを出してほしいと思います。その答えは、目の前の相手と異なるかもしれませんが。でも、それでいいんです。

翻訳は「全身で」

翻訳はクリエイティブな作業です。宮沢賢治の本を英語に翻訳するときは、「もし宮沢賢治が英語で書いたらどんな文章になるだろう」と考えます。そして自分の解釈で英語をつくっていくんです。それは、お芝居の演出に似ているかもしれません。

たとえばこんなシーンがあります。夫と妻が食事をはじめるところ。ふたりの間には塩が置いてあり、夫は料理に口をつけるまえにその塩を自分の料理に振りかける。すると妻は「あなたはたくさん塩をつかうのね」と言います。みなさんがこのセリフを英語にするとしたらどうしますか？ 私は、この妻のセリフはどんな気持ちで言っているんだろうと考えます。「私が作った料理がおいしくないから塩を振るのね!」と怒っているのか、それともとくに気にもせず平然と「塩をたくさん振る人ね」という雰囲気と言っているだけなのか。この2つではまったく意味合いが変わってきますよね。つまり、自分で解釈しないと翻訳はできないということなんです。

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」を、どういう英語にするか。私がこれまで読んだ英語



10代とともに



訳にはすべて否定形が使われていました。でも私は否定形は使わずに“Strong in the rain Strong in the wind”としました。宮沢賢治が英語でこの詩を書くとしたら、きっと「～しない」なんていう表現は選ばないと思ったんです。賢治は「～せよ」といっていると感じました。そして賢治が文章に命令形を使うとき、それは自分にむけて書いていることがほとんどです。なので「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」というのは、自分にむかって「～せよ」と命令しているのだと解釈しました。

そしてもうひとつ。“Strong in the rain Strong in the wind”としたのは、アクセントを最初の「S」に当てるリズムにしたかったから。宮沢賢治が日本語で書いた「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」のもつ、そのままのリズムにしたかったんです。意味だけじゃなく、ことばのリズムがうたになります。それが詩なんです。

このように、翻訳する際には作者になりきるようにして書いています。自分の目も、頭も、口も、手も足も、全身を作者に委ねて、全身を使って翻訳していけます。自分の姿を美しいと思ったことはありません。でも、そうやって全身を委ねて翻訳していた時に、ふと見た自分の手に「なんて美しいんだ」と思ったことがあります。そのときの自分の手は、きっと自分の手ではなかったんだと思います。もしかすると、古代ギリシアのミューズの神が宿っていた瞬間だったのではないかなと思ったりしています。

こんなふうに翻訳をはじめ、クリエイティブなことができるのはほんとうに幸せなことです。でも、そうなのは、じつは50代になってからです。いま80歳ですが、



私が最も幸せを感じたのは60～70代のころだったと思います。若いころは行き当たりばったりで、自分が何をしたいのかもわからなかった時期が長く続きました。それでも幸せでしたけどね。

翻訳することと、自分の作品を書くことの違い

翻訳は、もうすでに誰かが書いて、誰かが読んだものからうみだすものです。なので、書いている途中で休憩しても、机に戻ったらまた続きからはじめることができます。でも、自分の作品を書くときにはそうはいきません。書いているときには、物語は自分のなかにしかないで、少し机から離れると、戻った時にまた思い出さなくては書き進めることができません。そういった意味では、マラソンのような持久力が必要です。

それと同時に、出版するまではこの世にないものと同じですから、重ねて苦しいわけです。誰かに読んでもらうことがなければ、私の物語は存在しないんですから。

では何のために書くのか？「有名になりたいから」「お金がほしいから」「認めてもらいたいから」。すべて違います。私が本を書くのは、必然だと思えます。書かずにいられないから書いているんです。それがあかないかで、自分が作家になれるかどうかが決まるような気がしています。

神様と記録

そして、小説よりも難しいのが戯曲です。天才と呼ばれる小説家はたくさんいますが、彼らが戯曲を書いたからといって、かならずしも良い戯曲が書けるとは限らないんです。

小説を執筆する際、それを書いている作家は神様のような存在になります。自分の頭のなかにある世界を、紙の上につくりあげていく作業ですから、やりたいこと、言いたいことを表現しているわけです。しかし、戯曲の

執筆にそれをあてはめると、うまくいかないのです。

戯曲では、お話を進めるのは登場人物たちです。私もラボ・ライブラリーの『ドリームタイム』をはじめ、いくつかの戯曲を書きましたが、戯曲を書き進めていくと、勝手に登場人物たちが動き出すんです。そうなると、そんな彼らの行動を記録することが私の役割になるんです。それができないと、良い戯曲を書くことは難しいと思っています。

宮沢賢治は記録することにとっても長けている人物です。彼の『報告』というたった2行の詩をご紹介します。

さつき火事だと騒ぎましたのは 虹でございました。

もう1時間も りんと張って居ります。

これは、ある日に賢治が実際に見たことを書いた詩です。それ以外の意味は込められていません。白黒の写真のような、すばらしい詩だと思います。現実を非現実のように感じさせてしまい、非現実を現実のように感じさせて、読者の現実と非現実の境目をぼやけさせてしまいます。人はこれをファンタジーと呼びますが、私は「賢治リアリズム」とよんでいます。

そこにあるものを記録する。頭のなかのできごとを記録する。賢治の作品は、リアリズムにあふれています。戯曲も残している賢治の才能は、この2行の詩にもあらわれていると感じます。

自分の人生は、自分のために

作家になりたいければなればいし、その才能がなければほかのことを探せばいいです。そして人と違う道を歩もうとするときに、まわりから何を言われても、「そうですか。あなたの考え方はわかりました。でも私は違う」と、自分の意思を伝えることがたいせつだと思いますね。私がそうだったように、自分の進路について親から反対されるかもしれませ

10代とともに

ん。でもね、親は自分より早くに死んでしまっています。そして、親がいなくなったあとも自分の人生は続いていきます。私の人生は私の人生なんです。もしも若いころの私が親のいう通りにしていたら、どうなっていたでしょ

う。もしかしたら今よりお金もちになっただかもしれない。でも、お金なんて世の中にたくさんあるんです。やりたいことをがんばってやっていたら、自分が暮らせるくらいのお金は、自分にもまわってくるはずで

お金を目当てにするより、自分にとってたいせつなことに出来る道に進んでほしいです。同じ俳優という仕事をめざすとしても、お金を稼ぐ俳優になりたい人よりも、誰よりもすぐれた俳優になりたい人に、実力も名誉もついてくるものだと信じています。

「好きなことが何かわからない」という人もいるでしょう。そんな人でも、「この人にあこがれる」と思ったりすることはありますか？ そういう人を見つけてみてください。その人の生き方に、何かヒントがあるかもしれません。

私にも自信があるときと、自信がないときがあります。でも、自尊心は絶対に私のなかにはあり続けています。誰に何を言われても、この自尊心だけは、自分のなかになくしてはならないのです。自尊心さえあれば、歩き続けることができるはずですから。

(文責：編集部)



インタビューを終えて

[取材協力]

首都圏で活動している大学生ラポ会員

●猪狩佳音(大4/神奈川県・倉藤睦子P)「挫折は成功につながる」。このことばがすごく印象に残った。私は負けず嫌いな性格ではあるけれど、それと同時に物事を達成するまでの道が長くてそれが時に苦しくなってゴールの手前で諦めてしまうことがあるからだ。しかし今回の対談のなかでバルバースさんは「作家になるまでたくさんのお話を吸収した。それは自分の人生を豊かにするために」と話されていて、自分の「いつか」のためにもっと未来の自分のことを考えてこれから行動していきたいと思った。これからの人生、たくさん挫折することもあるけれどそのたびにこのことばを思い出して自分の人生を豊かにしたい。

●石橋実空(大4/神奈川県・石橋幸子P)バルバースさんの話を通して、「まず体験すること」の重要性が伝わりました。自分自身に引きよせて考えてみると、私は好きなことでも始めるまでにすごく時間がかかってしまったり、継続するの

もまわりの助けなしではあまりうまくいった試しがないので、どうしてバルバースさんは諦めず、誘惑にも駆られず、好きなことにむかって自分の力で進んでいったのか、というその力の湧きどころが非常に気になりました。ですが、そこをあえて提示せず、あなたの好きな事をすればいいし、やり方もあなたが考えるんだよとはっきり伝え、私たちに任せてくれるのは、未来をつくるのは次の子どもたちであるというメッセージなんだと感じ、自分に向きあって自分の答えを出すのがいちばん良いのだろうなと思いました。

●加来つばみ(大4/千葉県・森富子P)私はまわりと同じことをすることで安心し、それを正解だと思っていた。しかし、バルバースさんが20代のときに当時のソビエトやポーランドに行ったときの経験を聞き、私の人生は、自分で自分の道を歩んでいるわけではないと思った。これから先の人生は、模範や解答のない、自らの道をひらく

ことになる。そのため何をたいせつにしたいのか、どんな人生を歩みたいのか、就職活動のときは違った自己分析をして自分自身を知ったり、歴史上の偉人の人生を知り、その人の苦勞を考へてみたりして自分の芯をみつけた。

●太田 脩(大2/埼玉県・大沢和子P)とても刺激的な経験になりました。『ドリームタイム』や宮沢賢治作品をはじめ、ふだん何気なく聞いていたライブラリーや曲の英訳もされていたということで、日常的にバルバースさんの作品に触れていたことに驚きました。私は『雨ニモマケズ』の英訳が好きなのですが、あの力強い英訳はリズムをとってたいせつにされていたとのこと。そのお話を聞いてからあらためて聴いてみると、たしかに英語のリズムから賢治が詩に込めた意味が伝わってくる気がしました。またバルバースさんはご自身の経験から私たちわかものにもむけてのメッセージも送ってくださいました。その言葉を胸にこれからもがんばろうと思います。

●関口拓海(大4/埼玉県・飯田洋子P)バルバースさんには、自分の考えに迷いがなく、だれに何を

言われても曲がらない軸のようなものがあるように感じた。それはバルバースさんの波瀾万丈な人生にも表れていると思った。私は、どうしてそんなに自分らしくあり続けることができるのかふしぎに思った。バルバースさんにその疑問を投げかけて返ってきたのは「あなたの親にあなたの夢を知る資格はないでしょ？ 自分のための答えをみつけなさい」ということば。私は大学4年生で、就職を控えているが、まだ自分が選んだ道を信じて生きていく勇気がない。それでも、バルバースさんのことばを胸に、自分にとって良いことは何か、自分がほんとうに好きなことは何か、問いかねながら一生懸命生きていきたい。

●長澤優作(大2/埼玉県・宮澤恭子P)興味深いお話をたくさん聞くことができました。歩んできた人生経験や人生観など自分とは考えが全然違うことが多く、人生観を考へ直すきっかけになったなと思います。インタビューを通して『ドリームタイム』を聴くことや読むことがよりおもしろくなりました。今回のスプリングキャンプで取り組めるのがとても楽しみです。

[取材日] 2024年10月

2024-2025

冬のラボ 国際交流

ニュージーランドから27名、中国・上海外国語大学附属外国語学校から7名の青少年が来日した冬のホームステイ受け入れプログラム。受け入れ家庭で、パーティで、キャンプで、さまざまな交流がうまれました。来日者と受け入れ家庭、それぞれどのような体験をしたのかをご紹介します。

ニュージーランド青少年受け入れ

日程 2024年12月13日～2025年1月4日

参加者 27名



中国青少年受け入れ

日程 2024年12月22日～2025年1月3日

参加者 7名



＊ここでしかできない体験を

山岸 慈英 (高1 / 神奈川県・佐山有紀子P)

来日者 : **Liam** (17歳)

＊受入れをしようと思ったのは…

学校の語学研修でオーストラリアに行った際、ホームステイ先でふだんできないようなことを経験できたので、今度は自分が受入れをして、来日者にも同じようにここでしかできない体験をしてもらいたいと思った。そして日本のことをもっと知ってもらいたいという気持ちが強くあった。



Liamとは1週間、一緒に学校に通った。私の学校の制服はシャツにネクタイ。ところが、彼はネクタイを結べないことがわかった。私もネクタイの結び方を父に教わったように、彼に教えてあげたかったが、日本語で教えるのですら難しいので、なかなかうまく伝わらなかった。

＊Liamとの思い出



ゲームが好きなLiamと一緒にプレイしたことがきっかけで、いつの間にか仲良くなった気がする。絵カードや身振り手振りなど、使えるものは総動員して、自分が知っている単語とあわせてコミュニケーションをとった。Liamもそんな自分にあわせて、簡単な英語で話してくれた。

私は乗り物が好きなので、日本の鉄道を紹介したいと思い、より多くの路線に乗れるルートを考え、東京ツアーを企画・実施した。Liamは日本らしい神社仏閣よりも、かっぱ橋で訪れた工場の、本物そっくりな食品サンプルや、秋葉原で見たフィギュアなどのキャラクターグッズに感動していた。

＊受入れをしてよかった

私自身もふだんできないような体験ができたのが良かった。Liamはチェロ奏者なので興味があると思い、日本の冬の風物詩、ベートーヴェン「交響曲第九番」を迫力ある合唱とともにコンサートホールで聴こう！ということになった。クラシック音楽に興味がない私でも、大勢が歌う「歓喜の歌」を聴いて、思わず感動してしまった。



＊家族より

Liamは慈英と言動がよく似ていて、まるで息子がもうひとり増えたかのように、しぜんとわが家にとけ込んでいきました。そんなLiamをさりげなくサポートしたり、おもてなしプランを自ら考え実行する息子の姿に頼もしさを感じました。最初Liamは息子を頼っていましたが、慣れてきてからは自分一人でやってみたいから、といろいろなことにチャレンジしていました。息子もLiamから挑戦する勇気をもらい、留学を決意！今後のふたりの成長がとても楽しみです♪

Liam's Thoughts

This homestay program was heaps of fun. I really enjoyed it. I enjoyed my time visiting a Japanese high school, experiencing a variety of events with my host family. I had a nice experience with them. Also, I think the Labo camp was very fun and well managed. I thought it was a very good experience.



＊新しい家族が増えた

宋 知寛子 (中1/大阪府・金 憲子P)

来日者：卓妍 (16歳)

＊受入れをしようと思ったのは…

いままで受入れをした子が「楽しかった！」と言っていたし、中国語にすごく興味があったので挑戦してみました。1～10までを中国語でなんというかを教えてもらったり、あいさつの仕方を教えてもらいました。でも卓妍さんは日本語がペラペラだったから、ジェスチャーとかをつかわなくても全部伝わりました。



一緒にユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行ったのが楽しかったです。「ハリポタエリアに行きたい!!」と言っていたのでハリリー・ポッターエリアに行って、イギリスの有名な料理フィッシュアンドチップスを食べました。めちゃくちゃおいしかったです!

＊卓妍さんとの思い出

1日目の夜に、家族でボードゲームをしているうちに仲良くなりました。一緒に行ったウインターキャンプは、自分のなかでもいちばん楽しいキャンプになりました。卓妍さんも「楽しかった」と言ってくれました。受入れホストとして、卓妍さんがみんなとうまくなじめているか、孤立していないか気をくばったり、体調が悪くないか、ちょっとうるさいぐらい聞いていました。



＊戸惑ったり、びっくりしたり

中国の学校は1時間目から10時間目まである日もあるそうです。ほかにも湯船につからなかったり、冷たいものを絶対食べなかったり。卓妍さんはアイスクリームは好きなのに、冬はお腹が痛くなるからと言って食べませんでした。パンをお箸で食べていたので、なんでもお箸で食べるのはやりにくそうだなと思いました。

＊受入れをしてよかった

中国にしかない文化をたくさん知れたし、新しい家族が増えたのがよかったです。卓妍さんを見て、自分が行く場所、国について興味をもって事前に調べておくことがたいせつだな、と思いました。

＊家族より

卓妍さんは初日からまわりの人と積極的にコミュニケーションをとろうとし、日本の食べ物にもチャレンジ。物知りで、頭の回転もよく、とてもしっかり者。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンやラーメン屋に行くことを伝えた時のうれしそうな反応など、とてもチャーミングなお嬢さんでした。知寛子は来日前からメールでやり取りしていたので、対面するとすぐ仲良くなり、本当の姉妹のように過ごしていました。今夏、北米交流に参加する知寛子へのアドバイスは、具体的ですぐに取りかかれるものばかりでした。「来年の1月は、学校の試験が終わっているから、ぜひまた来たい!」と言ってくれました。「卓妍さん、お帰り」と出迎えたいです。

＊卓妍的想法

日本語もそんなにじょうずでなくて、来るまでずっと心がどきどきでした。親しく接してくれて、パーと安心しました。キャンプで和室ははじめてで、慣れていない時もあった、どんどん慣れてきました。みんないろいろ助けてくれて、ありがとう!



States' 4-H 新代表メッセージ

Dear members of Labo

States' 4-H International Programs (略称 States' 4-H) は、ラボ国際交流の開始時からの提携団体です。2024 年に新しく代表に就任した Van Nguyen 氏より、ラボ会員のみなさんにメッセージが届きました。

Greetings from States' 4-H! It is an honor for me to be the new President & CEO of this organization that is near and dear to my heart. I first worked at States' 4-H in 2006 when it was still WorldWise (*1). I started with the in-USA program, overseeing 700 Japanese youth as they were welcomed to 4-H families across the U.S. I quickly branched out to our other programs and supported Yoko Kawaguchi (*2.) as she grew our exchanges while also establishing States' 4-H as an independent 501(c)(3) (*3.) organization. It was an eventful time, and I learned so much! It is with great pleasure and humility that I return to States' 4-H and continue the legacy that Yoko has established.

This past November at States' 4-H's 50th Celebration (*4.), I had the honor of meeting 17 Labo tutors. These women gave me such a warm welcome and shared with me their many memories from the past 50 years. They are our living history! I look forward to creating many more memories with Labo tutors, Labo delegates, and with the Labo family in general. It is my hope that we will continue nurturing our partnership for the next 50 years and beyond! The experiences we provide for our youth are invaluable and will shape their world view. Thank you for being wonderful partners and working with us towards a future where our young people engage in new experiences, welcome those from different cultures, and seek to learn other perspectives.

In unity,

Van Nguyen

*1. WorldWise : 2006 年当時の States' 4-H の名称

*2. Yoko Kawaguchi : States' 4-H の前代表

*3. 501(c)(3) : アメリカの非営利団体を規定する法的条項

*4. States' 4-H's 50th Celebration : 2024 年 11 月にアリゾナ州にて開催された、国際交流 50 周年記念の集い



States' 4-H を代表してご挨拶いたします。

愛する States' 4-H の代表に就任したことを大変光栄に思います。

私はこの団体がまだ WorldWise という名称のころから働きはじめ、多くの日本の青少年が全米の 4H の家庭にあたたかく迎えられるようずを見守ってきました。そして、前代表の Yoko Kawaguchi さんが交流プログラムを拡大し、States' 4-H を独立した 501(c)(3) 団体として設立するサポートをしながら多くのことを学んできました。

この団体の代表を引き継ぐことはたいへん嬉しく、身の引き締まる思いでいます。

2024 年 11 月におこなわれた States' 4-H 50 周年記念式典では、17 名のラボ・チューターにお会いする機会に恵まれました。そしてみなさんは、この 50 年間のたくさんの思い出を語って下さいました。彼女たちはまさに生きた歴史です！これからもラボ・チューター、交流に参加する子たち、そしてラボ・ファミリーの皆さまと一緒に、多くの思い出をつくっていくことを楽しみにしています。

ここからまた新たな 50 年、そしてさらにその先も、States' 4-H とラボがパートナーシップをはぐみ続けていくことを願っています。この交流プログラムでの経験は青少年にとって非常に貴重であり、彼らの世界観を形成するものとなるでしょう。子どもたちが新しい経験を通して、さまざまな文化をもつ人々をこころよく受け入れ、多様な視点を学ぼうとする未来にむけ、私たちと一緒に活動して下さることに感謝いたします。

皆さまとともに
ヴァン・グエン



2025ラボ国際交流

夏の受入れ家庭募集

この夏、日本で、家族で 国際交流を体験しませんか？

●北米日本語研修 (首都圏のみ)

期間：6/13～7/11

※幼児・小学生のラボ会員家庭も受入れ可

●北米青少年交流

期間：7/11～8/6

対象：新中学1年生以上のラボ会員家庭

●ラングブリッジ日本語研修 (首都圏のみ)

期間：7/12～8/3

※幼児・小学生のラボ会員家庭も受入れ可

●中国 (北京) 青少年交流 (首都圏中心)

期間：7/29～8/11 (予定)

対象：新小学6年生以上のラボ会員家庭

●韓国青少年交流 (首都圏中心)

期間：8/1～8/10 (予定)

対象：新小学5年生以上のラボ会員家庭

※詳細は「受入れ家庭募集要項」をご覧ください





ラボ国際交流は日本と海外の青少年とホストファミリー、ひと組ひと組がゆっくりと時間をかけて交流を紡いできたプログラムです。それぞれの交流はひと夏だけのできごとにとどまるものではありません。

約20年前の受入れプログラムでの出会いから、時を経てふたたび家族をつなげた交流……そんな心あたたまるエピソードを、佐々木志保テューター（広島県）からご紹介いただきます。



こんにちは。かつてラボの会員だった夫と家族が、約20年前に受入れをしたブライアンと再会したできごとについてお伝えします。

20年前、佐々木家が受け入れることになっていたのは、じつはブライアンではなく、そのお友だちでした。ところが事情がかわり、ブライアンが替わりになることになったのが始まりでした。ブライアンはきょうだいが多く、ファミリーでは日本人もふたり、受け入れたことがあったそうですが、当時は日本にかぎらず、外国に興味がなかったそうです。

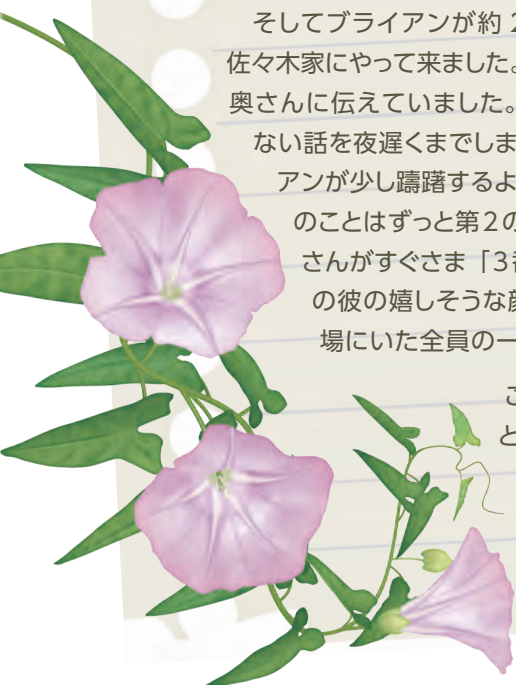
一方、当時少年だった私の夫はホストブラザーでしたが、こちらもブライアンと同じように英語、外国人に興味のない子だったそうです。ブライアンは夫のそっけない態度には何も思うことはなかったようですが、お母さんががんばっているいろいろな所に連れて行ってくれたり、英語で伝えようとしてくれたことに驚きがあったようでした。お母さんは、ブライアンが楽しんでいるかどうかよくわからず、帰国後も連絡がとれなかったため、ずっと気になっていたそうですが、ブライアン自身は、とても衝撃を受けていて、そこからの人生が大きく変わったそうです。

帰国後のブライアンはアジアに興味をもち、さらには「ひとりで外国で生活をするのができた」と自信がついたそうです。日本での経験がなかったらきっと外の世界に興味をもつことはなく、ずっと地元の田舎に住み続けていただろう、と言っていました。

ブライアンはずっと佐々木家のことが気になっていて、コロナ禍で自宅時間が増えたことを機に佐々木家を探して連絡をとろうと思ったようです。インターネットで家族の名前を検索し、関係ありそうなところには連絡したりしたそうですが、不明だったり返事がなかったりと、それはたいへんだったそうです。そんなとき、もしかしたらまだ同じところに住んでいるかもしれないという情報があったので、仕事で日本による機会があった弟に手紙を預け、弟が広島の佐々木家を訪れました。

そしてブライアンが約20年ぶりに奥さんとお子さんを連れてご家族で佐々木家にやって来ました。家のなかをいろいろと思い出しながら嬉しそうに奥さんに伝えていました。全員が20年前を思い出しながら尽きることのない話を夜遅くまでしました。夕飯をみんなで囲んでいるときに、ブライアンが少し躊躇するような恥ずかしがるような口調で、「じつは佐々木家のことはずっと第2の家のように思っているんだ」と言いました。お母さんがすぐさま「3番目の息子よ、ここはあなたの家よ」と言ったときの彼の嬉しそうな顔、お母さんの母の顔、ほほえましい空間はその場にいた全員の一生の宝物になったと思いました。

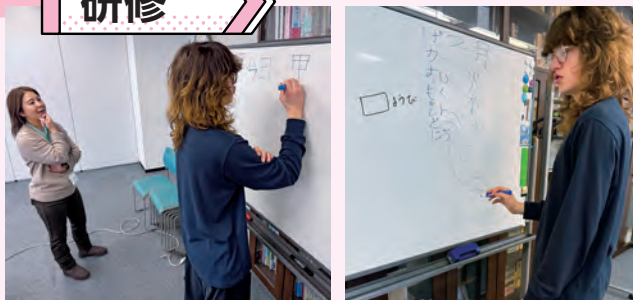
これからは20年と空けることなく、連絡をとりあうと思います。佐々木家の子たちはラボから離れ、親となりましたが、本当にラボの活動って一生の宝物になるんだと身をもって体験しました。



What do you do as Labo Intern?

ラボ・インターンプログラムは、外国の青年が日本に1年間滞在しながら、ラボ活動をとおりて日本語学習や、日本の文化、風習などについて理解を深めることを目的としています。2024年秋から来日している Emma と Karter に、ラボ・インターンの活動について教えてもらいました。

1 研修



10月と2月にそれぞれ約1か月、ラボ教育センター本社（東京）で日本語と日本文化の研修。



Emma Willingham
アメリカ・ノースカロライナ州



Karter Buffington
アメリカ・アイダホ州

2 ラボ・パーティ訪問

配属先の支部のラボ・パーティを訪問して、子どもたちと交流。事務所にいるときは、パーティ訪問の打合せや準備などを行っています。



研修の一環としてパーティ訪問をしたときの様子



3 ラボ国際交流への対応

冬と夏の来日プログラム、高校留学事前合宿、キャンプの国際交流プログラムや来日者への対応など、ラボ国際交流に関わる行事に対応。

4 文化プロジェクト

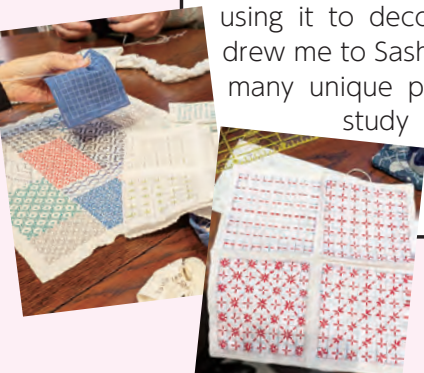
週に1日は Study Day を設けて、興味がある日本文化に関する研究をおこなっています。インターンとしての活動の締めくくりに、レポートを提出して、研究成果を発表します。ふたりは何を研究しているのでしょうか。



Emma

Sashiko Embroidery

Sashiko, translating to 'little stab' in English, is a form of Japanese embroidery used to mend and add warmth to clothing. As time went on, people started using it to decorate clothes as well. What drew me to Sashiko in the first place was the many unique patterns. I am so excited to study this beautiful and sustainable art.



Karter

Ukiyo-e

Hiroshige is one of my favorite artists. In high school, I did a project studying him for my Art class! Many Ukiyo-e pieces are popular in the West. My other favorite artist, Claude Monet, collected Ukiyo-e and was heavily influenced by Japanese art. This intriguing connection between my two favorite movements of art is what made me want to study Ukiyo-e even further.

AI活用は、 教育的な願いから始まる コミュニケーションである



柳瀬 陽介

京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター教授。博士（教育学）。専門は英語教育学。著書に『成長する英語教師をめざして——新人教師・学生時代に読んでおきたい教師の語り』（共編著、ひつじ書房、2011年）、『英語教師は楽しい——迷い始めたあなたのための教師の語り』（共編著、同、2014年）、『小学校からの英語教育をどうするか』（共著、岩波ブックレット、2015年）、『危機に立つ日本の英語教育』（共著、慶應義塾大学出版会、2009年）、『学習英文法を見直したい』（共著、研究社、2012年）、A new approach to English pedagogical grammar: The order of meaning (Routledge, 2017) ほか。ブログ「英語教育の哲学的探究2」を運営。学習者の身体実感を重視した英語教育を提唱している。

本講義は、コンピュータ科学やプログラミングについて素人の私がどのようにAI（ChatGPT）へのプロンプトを書いているかを説明しました。私の基本的な考え方は、AI相手のプロンプト作成も、こちらの事情をよく理解していない人間相手に丁寧に説明するやり方と似ている点が多いということです。

英語ライティング教師として私は、パラグラフ・ライティングとわかりやすい英文構成法を、常日頃学生さんに教えています。パラグラフ・ライティングでは、自分が伝えたい要素をまずブレインストーミングで列挙し、次にそれらの要素をグループ化した上でグループ内の順番を決め、さらにグループ間の順序を定めます。わかりやすい英文構成法は、情報の骨格を文の冒頭

部分に提示するなどのいくつかの原則にしたがいます。私のプロンプトはそれらをAI相手に行っていることを講義では実例を示して説明しました。

もちろんAIプロンプト特有のコミュニケーション方法もあります。典型的なのは「役割指定」「課題指定」「条件指定」「出力指定」「データ入力」などのセクションを独立させることです。しかしそれらも人間相手にわかりやすい説明をすることの延長にあります。わかりやすい文章作法について、私は『情報の科学と技術』73巻6号219-224ページに掲載された論文で解説しています。右のサイトでどなたでも読めますので、ご興味があればアクセスしてください。



2021年からは「教師のためのことばセミナー」として、教師を主たる対象として理論言語学の考え方や方法を講義とディスカッションを交えた形式で解説する企画を始めました。今年度は「ことばへの気づき」の対象となる言語知識やその獲得・使用などについての講義に加え、話題沸騰の生成AIと言語教育との関連についての講義を2つ組みこむことにしました。小・中・高・大の先生以外にも、教員志望者、社会人など、いろいろな背景をもつ方々にむけ、わかりやすく解説しています。

募集案内

■春期講座

理論言語学の主要な研究領域を2日間で広く学ぶことができます。

日程：4月12日～13日

講師：池上嘉彦（東京大学名誉教授）

ほか14名

■理論言語学講座オンラインガイドス

前期担当講師が各講座について説明します。

日程：4月19日

■理論言語学講座

言語学の広い領域について、今年度は入門から上級まで19課目を開講予定です。

日程：5月12日～12月22日

（前期・後期 各10回）

※8月に夏期集中講義あり

※詳細については東京言語研究所ウェブサイトに掲載します。

<https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

国際交流がはぐくんだ 私のキャリア

若月洋一
会社役員



私は、小学1年生から大学4年生までラボでお世話になりました。1982年、中学2年生の夏にカンザス州でラボ国際交流を経験しました。この経験は、私の人生において非常に重要な転機となりました。現在、私はカゴメ株式会社で農事業管掌兼マーケティング本部生鮮企画部長を務め、カゴメアグリフレッシュ株式会社の取締役も兼任しています。カゴメグループのスローガンである『トマトの会社から、野菜の会社から』を実現するために、私の仕事は、農業とマーケティングの両面から新鮮な農産物を消費者に届けることです。この役割を通じて、持続可



能な農業の推進と健康的な食生活の提供に貢献しています。

さて、カンザス州でのホームステイでは、異なる文化や価値観を理解し、尊重することのたいせつさを学び、現在の職場でのチームワークやリーダーシップにいかされています。当時、お世辞にも言語能力は飛びぬけて高いとはいえ、1か月間のホームステイに対する不安も多かったのですが、何とかコミュニケーションをとろうとする力や対人関係に臆さない姿勢が身につきました。この経験は、家族とともに台湾に駐在し、4年間勤務した際にもおおいに役立ちました。異文化のなかでの生活や仕事において、柔軟な対応力と積極的なコミュニケーション能力が求められました。台湾では、現地営業推進部門の責任者として、カゴメの製品を広めるために多くの現地企業と協力しました。言語や文化の壁を乗り越え、現地の人々と信頼関係を築くことができたのは、ラボで培ったコミュニケーション能力

のおかげです。また、台湾での生活を通じて、家族との絆も深まりました。異国の地での生活は挑戦の連続でしたが、その経験が私たち家族を強く結びつけました。

ラボ国際交流プログラムでの経験は、私のキャリア形成において欠かせないものでした。異文化理解やコミュニケーション能力、そしてグローバルな視点をもつことの重要性を教えてくれたラボに、心から感謝しています。これからも、ラボで学んだことをいかしながら、持続可能な農業と健康的な食生活の実現にむけて努力していきたいと思います。

国際交流を通じて、異文化理解とコミュニケーション能力を磨きましよう。これらの経験が、未来のあなたのキャリアに大きな力となります。

わかつき よういち=カゴメ株式会社
農事業管掌兼マーケティング本部生鮮
企画部長、カゴメアグリフレッシュ
株式会社取締役
(山口県・花井鈴子パーティ OB)

Information

<一般財団法人ラボ国際交流センター>

■理事会・評議員会

予算理事会 : 3月6日
予算評議員会 : 3月21日
決算理事会 : 5月22日
決算評議員会 : 6月10日

■海外への訪問プログラム

○ラボ中国青少年交流

日程: 3月26日~4月4日
上海外国語大学附属外国語学校と北京市月壇中学を6年ぶりに訪問
北京では『西遊記』の挿絵を描いていた
だいた李庚氏のアトリエを訪問予定

○ラボ韓国青少年交流

日程: 7月22日~7月31日

対象: 参加時に小学6年生以上のラボ
会員およびチューター

定員: 15名

(申込み多数の場合は抽選)

申込期間: 2月28日~3月19日

※詳細は募集チラシ参照

○第38期ラボ高校留学全国事前合宿

日程: 5月4日~6日
会場: 国立オリンピック記念青少年
総合センター(東京都渋谷区)

○全国国際交流引率者合同会議

日程: 5月17日~18日
会場: ラボ教育センター
本社(東京都新宿区)

<東京言語研究所>

■集中講義

日程: 3月8日~9日
講師: 藤田耕司(京都大学名誉教授)
演題: 生成文法理論における進化的
妥当性の探求

■公開講座

日程: 3月16日
講師: 円城塔(小説家)
演題: 言語の主体性: あるSF作家の
事例

※詳細については東京言語研究所ウエ
ブサイトに掲載します。
<https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>